

化学物質事故から身を守るには 中国・インド・タイから学ぶ

今年8月、中国天津での危険物専用倉庫での化学物質爆発事故は、改めて我々の身近なところでの化学物質事故の危険性を示しました。また1984年インドで起きたボパールの化学工場事故は30年経ってもまだ地域住民に被害はなくなっていない。日本でも地震や台風などの天災が増えています。住宅地域の近くに危険な化学物質が保管されていた場合、被害を予防するためにはどうした対策が必要なのでしょうか？

中国からは、元グリーンピース中国の化学物質問題担当のTianjie Ma氏、またインドからはボパールで事故の被害者救済に取り組んでいる団体（Sambhavna）のAjay Patel氏、またタイからは化学物質管理に取り組むEARTHという団体のPenchom Saetangさんをお招きし、アジア地域での化学物質事故の経験をお話いただき、被害を少なくするために化学物質管理政策について考えます。2020年までに化学物質による人や環境への悪影響を最小化するというヨハネスブルグサミット（2002年）の目標（WSSD2020年目標）に基づきアジア地域で何が必要かを議論したいと思います。ぜひご参加ください。このセミナーは地球環境基金の助成を受けて開催されます。

講演① Tianjie Ma氏(China Dialoug 元グリーンピース中国化学物質問題担当)
「天津化学工場事故と中国における化学物質管理とNGOの取り組み」(1:40~2:20)
講演② Penchom Saetang氏(Ecological Alert and recovery Thailand(EARTH) タイ)
「タイの化学物質事故と管理体制」(2:20 ~3:00)
(休憩 3:00~3:15)
講演③ Ajay Patel氏(Sambhavna-clinic インド)
「インドボパール化学工場事故から30年後の真実」(3:15~3:55)
報告①自治体関係者(交渉中)
「日本での化学物質事故対策について」(3:55~4:15)
ディスカッション(4:15~4:50)
演題はいずれも仮題です。変更される場合があります。
チラシの裏面に参加団体の簡単な紹介文を掲載しています。

日時:

2015年11月22日（日）

午後1:30~5:00

会場:中央大学駿河台記念館

東京都千代田区神田駿河台3-11-5

JR中央・総武線 御茶ノ水駅下車、徒歩3分、東京メトロ丸

ノ内線 御茶ノ水駅下車、徒歩6分、東京メトロ千代田線

新御茶ノ水駅下車(B1出口)、徒歩3分、都営地下鉄新宿

線 小川町駅下車(B5出口)、徒歩5分

資料代:1000円(会員500円)

同時通訳がつきます

参加人数把握のため、ご参加希望の方は下記の連絡先のファクスかメールでお申し込みください。



主催:NPO法人 ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議

連絡先:〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4階

Tel.03-5875-5410 Fax.03-5875-5411 Email: kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp

国際セミナー参加団体の紹介

1) チャイナダイアログ (China dialogue) 中国

2006年に結成された中国とイギリスに本拠を置くNPO。中国の急速な経済成長にともなう環境被害に対しては、中国国内だけでなく、広く他国との共通の努力と共通の理解が必要になる。チャイナダイアログは環境問題について中国国内、国外の共通理解に基づく解決策を提言することを目指している。

2) サンバブナクリニック (Sambhavna Clinic) インド

1984年にインド・ボパールの農薬工場事故は、有毒ガスの流出により30万人の被災者と2万5000人の死亡者を出した世界最大規模の化学物質事故である。事故直後から被災者に対して、無料の医療サービスを提供するために設立されたクリニック。職員57人中半数はボパール事故被災者自身でもある。西洋医療と東洋医療を複合した医療サービスが行われている。サンバブナとはインドの言葉で、「可能性・共感・思いやり」という意味。

3) 環境回復と警鐘タイ (Earth Ecological Alert and Recovery-Thailand) 略称EARTH タイ

化学物質による環境影響からの回復活動に従事するNGO。これまで、東南アジア最大のマプタット臨海工業団地及びその周辺地域の大气汚染調査や健康影響調査を実施し、タイでの多国籍企業からの有害物質排出とタイ国民の知る権利を研究。タイでのPRTTR制度導入に関して、市民への情報公開必要性を呼びかけてきている。IPENに参加している。